

会 議 録

会議名	平成 29 年度第 2 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	平成 29 年 10 月 26 日（木） 午前 10 時から午前 11 時 55 分まで	
開催場所	東浦町文化センター 2 階視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、鈴木万里子氏、高崎義幸氏、 中村建志郎氏、平井伸幸氏、久米さちへ氏、 二宮邦子氏、水野智美氏、
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、 スポーツ課長、生涯学習係長、文化財係長、 生涯学習課職員、生涯学習指導員
欠席者	松下玲子氏、久米 弘氏、竹内正樹氏、宇井弘文氏	
議題	1 ジュニアリーダー育成事業の今後の在り方について 2 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	<p>◆生涯学習課長 次第に従い会を進める。 委員長より挨拶をいただく。</p> <p>◇委員長 （挨拶）</p> <p>◆生涯学習課長 教育長より挨拶をいただく。</p> <p>◆教育長 （挨拶） 以降は委員長が議事を取り回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い議事を進める。次第 1 「ジュニアリーダー育成事業の今後の在り方について」を議題とし、中村委員に経過報告を求める。</p> <p>◇中村委員 東浦町社会教育委員会小委員会の経過報告（第 5 回～第 7 回）を説明。</p> <p>◇委員長 中村委員の説明を受けて、委員の意見を募る。</p>	

◇委員

設置要綱を見ると、素晴らしいことが書かれている。この活動を修了した子の活動の場をどこにするのか。活動が発揮できる場が欠けているのが、一番の問題である。

◇委員

コミュニティや子ども会へ調査をしたが、リーダーが必要ではないという状態であった。実際活動してもらっているのは、ボランティアとしての活動であり、リーダーとして活躍する場とは考えられていなかった。研修会に参加している子どもたちは、おとなしい子が多く見られた。年間計画は、毎年の繰り返しではなく、指導者の負担にならないように、子どもたちをリーダーとして育ていけるように工夫するといいい。

◇委員

募集の方法を考えてみたらいいのではないか。中学生が無理でも、高校生、例えば東浦高校などに声をかけて、リーダーを増やしたらどうか。

◇委員

ジュニアリーダー担当の係を増やしてはどうか。例えば、子どもは運動が好きなので、スポーツ課とタイアップするなど、横とつながりをもって活動してはどうか。

◇委員長

生涯学習課だけではなく、社会教育活動に関する横の連絡をとりながらやっていけばいいのでは。図書館では、子どもたちがいつもボランティア活動をやってくれている。

◇委員

これからのリーダーは、カリスマ的に引っ張っていくのではなく、グループの中で人を上手に動かして、まとめていける人がリーダーになっていく。リーダーというものを考え直していく必要があるのでは。

◇委員

小学生の段階では、グループ活動の中で協調性を養うとか、地域の活動やイベントに参加することに慣れさせる程度でいい。イベントを企画・運営するのが中高生で、研修会などで育てるのが、ジュニアリーダー育成ではないかと思う。

◇委員

ジュニアリーダー養成事業を切り口に、東浦町の社会教育の中

	<p>の青少年教育の在り方をどう作っていかねければいけないかの視点で考えていかねければいけない。</p> <p>◇委員 役割地域社会が、かつての地域社会と姿を変えてしまっている。地域活動に多くの人に参加することが難しい時代である。少人数精鋭でやっていくことが必要ではないか。</p> <p>◇委員長 行政へ意見を求める。</p> <p>◆生涯学習課 人前で話すのが苦手な子や毎回の振り返りの発表ができない子が参加している。他の学校の子どもたちとグループになって、活動するなかで、自分の考えが発表できるようになったり協調性を身に付けたりすることができるようになった。子どもたちの現状を考え、リーダー育成をトップに立つ子の育成ではなく、おとなしい子の底上げという視点で考えることも必要ではないか。 指導者の不足に関して言えば、今後の課題である。</p> <p>◆教育長 いろいろな視点から考えられている。ありがとうございます。</p> <p>◇委員長 次第1「ジュニアリーダー育成事業の今後の在り方について」の議題の終了を宣告。 次第2「その他」について、何か事務局ありますか。</p> <p>◆生涯学習課長 特にありません。</p> <p>◇委員長 その他の案件がないことを確認し、議事の終了を宣告。</p> <p>◆生涯学習課長 次回の委員会について連絡。次回は、3月に予定。日時は後日連絡。</p>
備考	なし